

政策の柱	Ⅳ 市民の豊かな暮らしを支える活気と活力のある社会を築くために	政策名 (基本施策名)	3 農林業の付加価値を高める	施策名	② 農産物の産地力の向上
------	---------------------------------	----------------	----------------	-----	--------------

1 施策の取組状況

主要な取組内容	施策指標の実績とH24末の見通し	指標の達成率	施策指標等 (最上段が、総合計画に基づく指標)	単位	指標の数値(上段:目標値, 下段:実績値)						達成率	
					H19	H20	H21	H22	H23	H24	H23	
					基準年	実績	実績	実績	実績	見込み	H24見通し	
◆生産基盤の整った本市の優良農地と立地の優位性を最大限活用し、農産物の産地力の向上を図るため、産地間競争に打ち勝つことのできる市場価値の高いブランド農産物の生産力・販売力を強化する。	◆施策指標であるトマト出荷量は、猛暑等の影響によりH22に大きな減少がみられた。 ⇒H24年末の見通しについては、天候などの影響により収量の増減があるものの、達成は厳しいと考えている。	81.8%	トマトの出荷量	トン		4,370	4,465	4,560	4,655	4,750	81.8%	
					4,649	4,218	4,250	3,487	3,884	4,067	85.6%	
課題 ◆ブランド農産物の知名度向上、消費拡大に加え、原発事故による風評被害などに対する取組が重要である。												
			市民意識調査(重要度・満足度)			H20	H21	H22	H23			
						重要度	71.7	69.8	73.7	77.5	%	
						満足度	31.1	32.5	30.6	34.6	%	

2 重点事業の進捗状況

事業名	スケジュール		事業の進捗状況とH24末の見通し	課題
	前期	後期		
〔農産物ブランド化の推進〕 ブランド農産物の販売促進			◆ブランド農産物の販売促進については、首都圏を中心に戦略的PR事業を行うことにより、知名度向上と販路拡大が図られ、うつのみや産ブランドの確立した農産物が数多くある。 ⇒H24に向け、引き続き、各種イベントなどにおいてPR活動を強化するとともに、さらなる農産物ブランドを創出できるよう、高品質・高付加価値な農産物を供給できる土作りの励行や有機栽培の奨励などの生産振興への支援をおこない、農産物ブランド化の推進が図られる見通し。	◆市場価値の高いブランド農産物の生産を継続するためには、ブランド農産物の知名度向上と消費拡大が必要であるため、市内外におけるPR活動を継続しているが、福島第一原発事故の影響により、本市農産物においても風評被害が懸念される。

3 施策を構成する事務事業の活動指標

No.	事業名	対象者	開始年度	活動指標等	単位	指標の数値(上段:目標値, 下段:実績値)					重点度 (A~C) ※施策目標に対する寄与度	事業の方向性	施策目標を達成するための取組方針
						H20	H21	H22	H23	H24			
						実績	実績	実績	実績	実績			
1	農産物ブランド化推進事業補助金	うつのみや農産物ブランド推進協議会	H11	うつのみや産農畜産物の市民認知度(トマト)	%	20	20	20	20	20	A	継続	市場性の高いブランド農産物の生産を継続するためには、ブランド農産物の知名度の向上と消費の拡大が必要であるため、地元及び首都圏におけるPR活動を継続するほか、食や観光と組み合わせた消費者向けの農業体験事業や、実需者向け商談会などの取組を強化していく。また、原発事故の影響による風評被害対策については、農産物の安全性に関する情報を提供していく。
				うつのみや産農畜産物の市民認知度(梨)	%	18	18	18	18	18			
				うつのみや産農畜産物の市民認知度(牛)	%	56	57	57	57	57			
				ふるさと祭り東京“うつのみやブース”への来場者数	人	—	—	2,100	2,200	2,300			
						—	—	2,100	2,500				
2	園芸作物生産施設等整備事業補助金	宇都宮農業協同組合、農業生産法人、農事組合法人、その他園芸作物の生産団体	HG	パイプハウスの補助事業導入面積	ha	3	4	4	4	4	A	継続	これまで規模拡大する園芸農家に対し支援を行ってきたが、それに加え、品質向上、低コスト化に対する支援を行っていく。
						2.1	1.8	0.5	0.2				
				園芸作物高品質化設備の導入面積	a	—	—	300	300	300			
						—	—	190	86				

3 施策を構成する事務事業の活動指標

No.	事業名	対象者	開始年度	活動指標等	単位	指標の数値（上段：目標値，下段：実績値）					重点度（A～C） ※施策目標に対する寄与度	事業の方向性	施策目標を達成するための取組方針
						H20	H21	H22	H23	H24			
						実績	実績	実績	実績				
3	宇都宮牛復興プロジェクト補助金	宇都宮牛協会	H20	宇都宮牛の出現率	%	65	76	80	80	80	A	継続	宇都宮牛の出現率及び出荷頭数のさらに向上させるため飼養マニュアルの改善を支援するとともに、宇都宮牛の更なる知名度向上とブランド力向上を図る新たな取組を検討していく。
						61	63	69	67				
4	優良繁殖雌牛導入事業補助金	宇都宮農業協同組合	H16	優良繁殖雌牛導入頭数	頭	5	6	10	10	13	A	継続	優良な和牛肥育素牛の生産体制を確立するためには、優良な血統の繁殖雌牛の導入が必要である。今後は、宇都宮牛となりうる血統の雌牛導入を検討していく。
						5	6	10	4				
5	農業技術高度化事業	農業生産者、農業機械系企業、流通関係企業	H23	研究会の開催回数	回	—	—	—	2	3	A	継続	農業従事者の高齢化が激化する中、本市農業の持続性を高めるためには、農業生産の拡大や高齢従事者の負担軽減、新規参入の確保、園芸農業との複合化などを図ることが効果的であることから、農業生産技術の効率化・高度化や農産物の高品質化を推進していく。
						—	—	—	2				
6	しいたけ生産施設整備事業補助金	宇都宮農業協同組合、生産組合	H13	生しいたけの生産量	t	197	197	197	197	197	B	継続	菌床栽培に必要な機械や設備導入を中心に事業を展開し、主要な機械等の導入はほぼ完了したことから、今後は、生産・出荷の能力向上に向けた施設導入支援を行っていく。
				生しいたけの販売額	千円	254,430	254,430	254,430	254,430	254,430			
				施設整備補助団体	台	1	1	1	1	1			
						0	0	0	0	0			
7	家畜伝染病予防対策事業補助金	宇都宮市家畜防疫団体連絡協議会、宇都宮市酪農組合	S47	予防接種実施頭羽数	頭羽	67,072	61,000	61,000	61,000	61,000	B	継続	伝染病は広域にまん延する可能性があるため、市全域、全畜種を対象に防疫活動に取り組んでいく。また、関係機関（家畜防疫団体連絡協議会及び、酪農組合）と連携し、市民の家畜伝染病に対する正しい知識の普及と理解の促進を図っていく。
				脱臭剤等購入農家数	戸	27	25	25	25	25			
						27	21	23	24				
8	畜産経営環境対策事業補助金	3戸以上の営農集団（畜産農家、畜産農家と連携する耕種農家）	S47	たい肥舎建設棟数	棟	0	0	0	0	0	B	継続	良質なたい肥の生産及び利用による耕畜連携の推進、また、飼料米や飼料作物の生産拡大を促進するため、省力機械導入を一層推進していく。
				機械導入台数	台	3	2	3	3	3			
						3	2	0	2				
9	イノシシ防護柵導入事業補助金	農業生産者	H20	防護柵の設置箇所数	箇所	10	10	10	10	10	B	継続	イノシシによる農作物の被害が拡大傾向にあり、被害防止に対する農家のニーズは高い。被害を最小限にとどめるため、防護柵導入を推進していく。
						5	12	15	9				
10	適正施肥推進事業補助金（園芸作物）	宇都宮農業協同組合、農業生産法人、農事組合法人、その他農業者の組織する団体	S49	高品質化栽培マニュアル及び実践数	本	1	1	1	1	—	C	廃止	農産物の品質や食味が常に一定の基準を満たすためには、施肥の適正化が必要であることを生産者が認識し、自ら土壌検査を行う環境が整ったことから、平成23年度をもって廃止とする。
						0	1	0	1				
				土壌診断に基づく施肥設計作物	作物	0	0	2	1	—			
						0	0	1	1				